



からだ会議 2018 in Tokyo 実行委員長から

からだ会議 in Tokyo

～幻肢痛に対するアプローチ～

一昨年、東京で第1回 からだ会議 inTokyo 2016「アスリートのためのからだ会議」が開催されました。記録への挑戦、アスリートたちの目指す自己実現のためにポテンシャルをあげる方法を模索しました。

今年は 第2回 からだ会議 inTokyo 2018 ～幻肢痛へのアプローチ～ として開催の運びとなりました。

1回目がオリンピックを目指すアスリートなら、今回はパラリンピックを目指すアスリートへ。そして今のからだに向き合い生きている全ての方へ。

目に見えるもの、目には見えないが感じる。からだは何を話しかけているのでしょうか。

からだは、あなたの心臓が最後の拍動を打つその時まであなたに忠誠を誓いました。

からだは魂を裏切りません。
魂がからだに意識を向けていないと、からだは不調や痛みをつかって知らせてくれるのです。

本日はお運びくださりありがとうございました。感謝致します。

Kay Taira

Kay Taira プロフィール

1985 LA スタジオワークアウトにてエアロビクスエクササイズを学ぶ。
1985-1992 エグザススポーツクラブにて指導
1998- 米海軍厚木基地にてグループエクササイズを指導。
2001より同施設でパーソナルトレーナーとして、運動の個人セッションを指導。現在に至る。
2014.12天城流湯治法に出会い、セルフケアを取り入れたセッションを指導。
2016.3.17電車の事故に遭い左脚と右眼を負傷。左脚下腿義足となる。
2016.8パーソナルトレーナーの仕事に復帰、現在に至る。



切断手術後の癒着や断端部の引きつり不具合はありませんか？
幻肢痛は我慢するものだと言い聞かせていませんか？
ご自身の身体との対話、意識を向け、身体を慈しみ感謝をしていますか？
義肢装具士、整形外科医、天城流湯治法、
各専門分野からの先生に集合していただきます。
さらなる未来への可能性を。

日時 2018年5月20日(日)
開場 10:30 開始 11:00 終了 17:30 予定

会場 田町スクエア
(東京都港区芝 5-26-24 田町スクエア 会議室 D)

からだ会議憲章

わたしたちが目指すこと

からだ会議は・・世界の健康保養地、日本を目指す

- 1 日本の治療法を中心とした健康文化、温泉療法、食物、衣類、住空間を国内外に知らしめて日本国民の健康のみならず世界中に発信して「世界の健康保養地・日本」を目指す
- 2 からだ会議の開催地を中心に医療機関と連携したリゾートで行うリハビリを推進する
リゾート・リハビリ・「リゾ・リハ」を推進する
- 3 国内の健康に関する一次産業の作物による食物、薬草などを掘り起してブランド化して農業を支える
- 4 もって、医療費削減・観光推進・雇用促進・農業推進・資源活用・産業推進に寄与する

からだ会議実行員会は天城流湯治法協会によって運営されています。

Program

第一部	10:30	開場	第二部	14:25	④義肢装具について ～義足とは？ これからの義足～
	11:00	開会のご挨拶		15:25	白井二美男 ((財) 鉄道弘済会 義肢装具サポートセンター 義肢装具士) 義足体験会 5～8名ご希望の方は挙手願います！
	11:15	①幻肢痛に対する天城流湯治法 からのアプローチ		15:35	⑤天城流湯治法施術体験会 ～幻肢痛へのケア法、 身体のパテンシャルを上げる方法～ ご希望の方は挙手願います！
12:00	杉本錬堂 (天城流湯治法創始者)	16:25	⑥コラボトーク 白井二美男 平野薫 杉本錬堂		
12:00	②義足体験者による体験談 ～幻肢からのメッセージ～	16:35	17:05～ 質疑応答		
12:30	Kay Taira (スポーツインストラクター・義足経験者)	17:15	閉会		
ーランチ 休憩ー		17:30	写真撮影		
第二部	13:30	③整形外科からみる幻肢痛 平野薫 (ひらの整形外科クリニック) ～切断とその後。医療現場からの幻肢痛 へのアプローチ～			

*スケジュールは変更になる場合もございます。

からだ会議 2018 in Tokyo 講演講師

白井 二美男 (Usui Fumio)

1955年群馬県生まれ。群馬県立前橋高等学校卒業、東京都内の私立大学文学部中退。8年間のフリーター生活を経て28歳で財団法人鉄道弘済会・東京身体障害者福祉センターに就職。以後、義肢装具士として義足製作に取り組む。89年、通常の義足に加え、スポーツガリハビリに有効だといちはやく気づき、スポーツ義足の製作も開始。91年、切断障害者の陸上クラブ(旧)「ヘルス・エンジェルス」を創設、2017名称を「スタートライン Tokyo」と改名、代表者として切断障害者に義足を装着してのスポーツを指導。やがてクラブメンバーの中から日本記録を出す選手も出現。2000年のシドニーから2016年のリオパラリンピックまで5回日本代表選手のメカニックとして同行する。通常義足でもマタニティ義足やリアルコスメチック義足など、これまで誰も作らなかった義足を開発、発表。最近では義足のファッションショーも開催して話題になっている。義足を必要としている人のために日々研究・開発・製作に尽力しているその類まれなる技術力と義足製作の姿勢で、義足の世界に「神の手」がいるとテレビ出演等多数。

平野薫 (Hirano Kaoru)

昭和55年久留米大学附設高等学校卒業 昭和62年九州大学医学部卒業 同整形外科教室入局平成5年同臨床大学院卒業 以後 国立小倉病院、広島赤十字原爆病院、JR九州病院などで研修を積み、平成8年より新日鐵八幡記念病院(現製鉄記念八幡病院)に就職。整形外科主任医長、リハビリテーション科部長を兼任。勤務医時代は、股関節、脊椎専門医として手術経験多数。しかし医師経験を積むに連れて、現在の薬や対症療法中心の医療に疑問を感じるようになり、独自に統合医療を学び出す。既存の概念に縛られない、人の自然治癒力を高めるための真の医療を探究すべく、平成22年4月ひらの整形外科クリニックを北九州市小倉北区に開院。以後、診療外時間に、精神世界、エネルギー医療、ヒーリング、霊的な世界も含めて研鑽を積み、平成28年1月に杉本錬堂湯治司が創案、広めて来られた天城流湯治法に出会う。そこで今までの常識を覆される衝撃を受け、「自分の身体は自分で守る」のコンセプトこそ長年求めていた医療であると確信。同年4月に天城流指導者育成講座を受講。以後クリニック内で天城流湯治法を中心として、整形外科の枠にとらわれずに全ての身体と心の不具合、病の診療に当たっている。統合医療として、食と咀嚼の指導、ミネラル補給、水素吸入や痛に対する温熱療法、足からのアプローチ、心の指導、など1人ひとりの身体と心と魂に向き合う医療を心がけている。

杉本錬堂 (Sugimoto Rendo)

日本全国から世界でも、自分で自分の身体を守るセルフケア法として、身体にまつわる様々なワーク ショップを開催。ワークショップ参加者は、「長年抱えていた身体の痛み・お悩みが、目から鱗の早さで改善されていく！」と驚きの声が上がります。自身が導きだした身体に関する法則を、誰もが日頃のセルフケアに生かせるようわかりやすく指導している。1996年健康保養による町づくりと地域活性を目指すヒーリングストーンズを設立。2000年日本の温泉療法アドバイザーとして招喚され渡独。2001年NPO法人錬堂塾を設立。静岡県地域づくりアドバイザー、健康・福祉・まちづくりアドバイザーとなる。2007年新しい湯治場づくりやセラピストの育成に力をいれながら全国ツアーを開始。世界に誇れる日本の健康文化として海外へも進出。アメリカ、ヨーロッパ、台湾、オーストラリアと活動を広げている。現在、天城流湯治法指導者の育成に力をいれていてセラピスト・治療家・医師・格闘家・ダンサー・ミュージシャン・ヨーギーなど多岐にわたる分野で世界中に1000名以上の指導者を育成している。2015年一般社団法人天城流湯治法協会設立。天城流湯治法協会では身体と健康についてのカンファレンス「からだ会議」を日本全国のみならずニューヨーク・サンフランシスコ・シドニーで開催している。